

西多摩初のCB講座!



CB(コミュニティビジネス)とは
会社など利益と効率を最優先する組織での「やらされる働き方」ではなく、身近にある暮らしと生活の課題を自らの知恵と工夫で解決し、感謝と連帯と報酬をプロデュースする

これから求められる新しい働き方

街のプロデューサーになる知恵と工夫

6月20日(日)	みんなでこんな街にしたい - 基調講演 -	福嶋浩彦氏
13:30~	そうだったのか、行政と市民の関係 - 新しい公共とは	
6月26日(土)	地域に新しい働き方あります	堀池喜一郎氏
13:30~	ボランティア活動などとの違いは	
7月3日(土)	はじめの一步の踏み出し方	竹内千寿恵氏
13:30~	やったもん勝ちを自分らしくはじめるノウハウは	
7月10日(土)	ひとものかね&情報の活かしかた	福島徹氏
13:30~	40年間求め続けた“地域によるこぼれる夢”とは	

対象 年齢、性別、市内外を問わず地域活動意欲のある方、活動の継続でお悩みの方

定員 20組(1組3名まで、多数の場合は抽選)

参加費 全4回5,000円/組 or 3,000円/人

進め方 毎回約90分の講義と興味分野に分かれてのグループ(WG)活動を組み合わせて進行します。

WG 食と農、外国人支援、環境と資源、高齢者、暮らしと生活、保育・教育、街づくり、等

問合せ、会場 ()は右図をご覧ください。

<http://www.hamura-tokyo.jp/>



●アクセス
立川駅からJR有楽線に乗り換え、羽村駅下車 東口より徒歩7分

●連絡先・問合せ
羽村市生涯学習センターゆとりぎ
〒205-0003 東京都羽村市緑ヶ丘1-11-5
TEL 042-570-0707 FAX 042-570-6422

申込方法

往復はがきで講座名、代表者の住所、氏名、年齢、電話番号、メールアドレス、希望WG名、参加メンバーのリスト、一時保育希望の有無(有りの場合は子供の年齢)を明記してゆとりぎへ(6月6日必着)

主催: 羽村市教育委員会 企画・運営: ゆとりぎ協働事業運営市民の会
協力: 羽村市産業環境部産業活性化推進室、市民活動ボランティアセンターはむら、
多摩CBネットワーク、特定非営利活動法人・団塊のノーブレスオプリージュ

講師プロフィール

福嶋浩彦氏



中央学院大学教授

1956年鳥取県生まれ。83年我孫子市議会議員。95年38歳で我孫子市長に当選し07年1月まで連続3期12年務める。この間、全国青年市長会会長、福祉自治体ユニット代表幹事などに就任。市の補助金の公募と市民審査、常設型市民投票条例、コミュニティビジネスの育成、市民債による自然環境の保全、提案型公共サービス民営化など、市民自治を理念とした自治体経営に取り組んだ。現在は中央学院大学社会システム研究所教授、内閣府参与、新しい公共をつくる市民キャビネット共同代表。行政刷新会議の事業仕分けでは民間評価者（仕分け人）を務める。著書に「市民自治の可能性」ぎょうせい105年など多数。

堀池喜一郎氏



NPO法人シニアSOHO普及サロン・三鷹 前代表理事

広域関東圏コミュニティビジネス推進協議会幹事。（株）日立製作所を定年退職後、シニアSOHO三鷹を立ち上げる。シニアのコミュニティビジネス起業のためのプラットフォーム提供や学校教育・高齢者IT講習事業・行政と協働事業など地域に貢献する事業型NPOの活動を行う。同法人は03年日経新聞地域情報化大賞、04年情報化月間促進貢献団体として経済通産大臣表彰。ボランティア活動「どこ竹@竹とんぼ教室」の代表幹事として、子どもに工作伝承の世代間交流講師の育成を推進し、06年文部科学大臣賞受賞。著書に「シニアよ、ITをもって地域にもどろう」エヌティティ出版。

竹内千寿恵氏



NPO法人Mystyle@こだいら 代表理事

広域関東圏コミュニティビジネス推進協議会幹事。商店街生まれの商店街育ち。結婚後、10年間で8回の転勤生活。出産、子育て、両親の介護を通じて、核家族にとっての地域のサポートの重要性を実感。小平市に居を構えて後、地域ポータルサイト「小平ネット」（小平商工会主宰）立上げに参画。市民サポーターの組織化、サイト運営管理を担当。生活経験に根ざした現場主義にビジネスマインドをプラスして地域密着のCB活動を展開している。小平市「行財政再構築推進委員会」委員、小平市「地域と歩む商店街づくり推進会議」委員なども務める。

福島徹氏



食品スーパーマーケット 代表

（株）福島屋代表取締役社長、（株）ユナイト（農・商・工連携ビジネスコンサルティング）代表取締役社長、農業法人「NAFF」の取締役を兼務。1975年大学卒業後、家業のよろず屋を継ぎ、酒屋、コンビニを経て34歳の時、現在の業態へ。その後東北の生産者から直接米を仕入れるなど農業との距離を縮め、コラボレーションによるオリジナル商品を数多く開発している。無農薬・無肥料で作る自然栽培の米や野菜の積極取り扱いなど通常のスーパーマーケットでは考えられない創意工夫で商圏20Kmから客を呼び、仕事を始めて以来40年間黒字経営を続けている。著書に「食の理想と現実」幻冬舎。

どんなことがWGテーマ（CB）に、の例

Mショッピングセンターを高齢者が“毎日通いたくなる”たまり場カフェにできないか

S小学校の校庭を鳥取方式で芝生化できないか

里山の耕作放棄地を媒体にして知的障害者の自立支援ができないか

待機児童や保育時間問題をコミュニティスクール化で解決できないか

羽村の堰の「ソメイヨシノ」を里親制度で救えないか

はむらん+α（青年協力ガイド、パトロール隊、など）等

